（様式1）

令和７年度　学力向上指導改善プラン

学校教育目標	ふるさとを愛し　よく考え　心豊かに　たくましく生きる　児童の育成

目指す子どもの姿	きらきらかがやく母子っ子　よく考え行動する子　つながる子　心と身体を鍛える子
変容を目指す資質・能力	a知識及び技能　b思考力・判断力・表現力　c学びに向かう力　d情報活用能力　e課題解決能力 f学び続ける姿勢　gコミュニケーション能力

三田市立母子小学校
学校長　阿部　恭大
研究主体【　学力向上委員会　】

前年度			継続性	4月（※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を朱字で修正）			2～3月		
					成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 （前年度の成果と次年度に向けた課題等）	評価		学力向上に向けた重点的な目標 （変容を目指す資質・能力）	（指標となる数値等）	（成果目標達成のための具体的な手立て等）	教員評価	（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
○書く・話す活動の充実 ○言語力の向上 ○読書活動の充実	○めあてやふりかえりはどの時間でも意識して行うことができ、児童が1時間を見通して授業に臨めている。 ○ビブリオバトルやブックトークの活動を継続し読書活動や体験活動とつなげながら言葉の力をつけていきたい。 ◆朝の会や授業中に書く場面を意識して取り入れることで、書くことへの抵抗は少なくなってきたが、語彙が少なく表現力に乏しい面がみられる。今後も体験と結び付けて文章に表したり、資料と関連付けてまとめるなど、授業や家庭学習に「書く場面」を意識して取り入れていく。	A	⇒	○言語力の向上 （a,b,c,d,e,f,g）	・書く、話す活動の充実。「根拠となる部分」を明確にして文章に書いたり、話したりすることができる。 ・算数や各教科でも書く力をのばし、ホワイトボードや板書だけでなく、タブレット端末を使っておたずねや説明を行う。大切なことを板書に残し、学びの質を高める。 ・自分の言葉でめあてを立て、授業の構えと工夫したノートづくりを行う。	・国語を中心に、根拠となる部分を見つけて発表する場面を設定する。 ・「めあて」や「ふり返り」を教科や特別活動で行い、全校生の前でも意見や感想を述べる機会を設ける。 ・おたずねの意義を子ども達に伝え、わからないことをわからないと自分から言えるようにする。 ・発表で出た大切なことを板書に残し、自分の学習の足跡を記録していく。			
○個別指導の充実 ○漢字・計算等の基礎基本の定着と計算力の向上	○休み時間などを利用して学力補充を行うことにより個別最適化の学びにつながっている。 ◆計算アタックでは自分で伸びを実感し前向きに取り組む児童が増えている一方、課題によっては苦手意識を持ち時間がかかる児童の様子もみられる。	B	⇒	○基礎基本の定着と計算力の向上 （a,b,c,d,e,f,g）	・週2回の計算アタックを行う。6回1セットとして行い、回答時間の短縮を目指す。また正答率80%をめざす。 ・漢字や語句の意味などのテストにおいて80%以上の正答をめざす。	・計算アタックを折れ線グラフによって見える化を行い、グラフの結果から自分の成果を確認できるようにする。 ・同じ問題を計6回行い、正答率の上昇を目指す。 ・毎日の授業や宿題で漢字を書く機会を設け、週１回の漢字アタックで成果を確認し定着を図る。			
○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 ○家庭でのコミュニケーションの充実	○朝食はどの児童もしっかりとって登校している。友だち同士の関係も良好である。あいさつやお手伝い、睡眠時間、家庭読書などの面では引き続き家庭と連携して取り組んでいく。 ◆家庭学習の時間が少ない。自分で課題を見つけ取り組むことができる自主性を育てたい。	B	⇒	○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 （c,e,g）	・家庭と連携し、生活リズムを整え計画的な学習習慣を定着させる。 ・自分で課題を見つけ取り組む自主性を育てる。	・あいさつやお手伝い、家庭読書、睡眠時間の大切さについて懇談会や通信等で発信していく。 ・タブレットでとった写真を使ってのスピーチや週末の日記等、新しい家庭学習の取組を紹介することで、自主的な課題に取り組めるようにする。			
○情報活用力、プログラミング思考の向上 ○タブレット端末の利用と説明力の向上	○多くの児童がタブレット端末を使い資料作りをしたり、発表や説明をしたりするなど、タブレット端末を利用することが定着してきた。 ○タブレット端末を使用することで、視覚的に情報を受け取ることができるので授業への構えが前向きになった。 ◆今後はタブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善についての研修を実施し、さらに広めていきたい。	B	⇒	○タブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善 （b,d,e,g）	・タブレットを活用して、調べ学習や、大型テレビへの掲示など、授業の工夫・改善を行う。 ・全国学力学習状況調査における質問調査で「日常的にICT機器を活用できる」と回答する児童が80%以上になるようにする。 ・質問調査で「ICT機器を活用し、自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができる」と回答する児童が80%以上になるようにする。	・教師が指定するホームページを児童がQRコードから読み取り、調べ学習を行う。 ・週末にタブレットを持ち帰り、ドリルパークを家庭学習としても行う。 ・タブレットを活用した発表の機会を設け、相手に伝わる発表になるように、、意見交流をしながら、目的に応じたアプリやプレゼンテーションソフトを使うことが出来るようにする。			
○ガイド学習を生かした授業づくり ○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展	○算数科のガイド学習の取組が他教科や特別活動、学校行事にも活かされており、児童が主体的に活動する姿が見られる。 ○教師の出場については子どもの思考が止まらないように意識することが定着しつつある。子どもの見取りをしっかり行い子どもが進めることを意識した教師の出場について考えていく。さらに研究を積み重ねながらガイド学習を他教科につなげていく。 ○算数の授業において、教材解釈、教材研究、授業研究によって全職員で共通理解してガイド学習を進めていく。 ◆児童が興味関心を持つことができる深まるおたずねについて研修を積んでいく。	A	⇒	○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展 （a,b,c,d,e,f,g）	・「子どもの深い学びをめざしたつなぐ力の育成」をテーマに研究をさらに推進していく。 ・どの教科でも子どもの主体的な学びを意識し授業改善をすすめる。 ・学校アンケート（職員）において「研究主題に基づいた研究は充実していたか」に対して肯定評価8割以上を目指す。 ・算数の授業において、教材解釈、教材研究、授業研究によって全職員共通理解のもとガイド学習を進め、「深まるおたずね」につなげていく。	・全員が年間3回以上は授業公開し、事前事後の研修で、教材研究や子どもの見取りをしっかり行うことで授業力の向上を図る。 ・部分的にガイド学習を取り入れるなど、おたずねを通して授業が深まるようにどの授業でも意識し、子どもが主体的に取り組むことで学力の向上を図る。			
○学校・学級便りや学校H・Pを活用した情報の発信 ○幼・小・中の１１年間の連続性を共有した学校園所連携の推進	○学校や学級が積極的に情報発信をすることにより、保護者アンケートでは肯定的な評価となっている。 ◆これまでも取り組んできているが、さらなる地域人材、地域教材を発掘・整備し、地域の特色を生かしたふるさと学習に取り組んでいく。	B	⇒	○連続性を共有した学校園所連携の推進 （f）	・週１回の学級通信、月１回の学校便り、HPで日々の児童の様子を掲載する。 ・こども園、小中学校、小規模校との交流を計画的に推進する。	・通信を通して学校や学級、学習の様子、行事予定などを積極的に発信し、家庭での話題になるように努める。 ・他校の児童と積極的に話すことができる活動を工夫し、自信を持って行動できる児童を目指す。 ・中学校区で行われる担当者連絡会で得られた情報を全職員で必ず共有する。			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果
（0～4の5段階評価）の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成　B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分　D・・・ほとんど達成できず